

たはら TAHARA History Inquiry Club 歴史探訪 クラブ 其の51

「こころのたからもの」

【原風景】^{げんふうけい}心象風景のなかで、原体験を想起させるイメージ（広辞苑）

簡単に言えば、人の心に残る思い出の風景、ということでしょうか。しかし、その思い出はその人の一生に大きな影響を与えているものです。

先日、田原を離れて40年近く経つKさんとお話をする機会がありました。田原での思い出話に花が咲きましたが、「白谷海岸からの夕日がほんとうに美しかったなあ」としみじみ語ったのが印象的でした。その方



白谷海岸の夕景

は、芸術を担う仕事をしながら、いわゆる都市的な生活をしていらっしゃるの、この言葉は意外に聞こえました。田原での経験が現在の自分につながっていることを伺い、少しうれしい気分になりました。

4月1日から文化財保護法が改正され、新しい文化財が加わりました。その一つが文化的景観です。聞き慣れない言葉ですが、「農山漁村地域の自然、歴史、文化を背景として、伝統的産業及び生活と密接に関わり、その地域を代表する独特の土

地利用の形態又は固有の風土を表す景観で価値の高いもの」と難しく定義されています。地域の伝統的な産業や生活、その土地の利用、自然との調和といったものがキーワードとなります。そして、これらの景観は、そのとらえ方に個人差があるとともに、その

の価値を具体的に表現できないものなのです。

この文化的景観の代表的なものとして、山間の谷間という地形的制約を克服し水田にした『^{たなだ}棚田』があげられます。自然を克服したこのような人間の営みは、あくまで自然との共存、風景との調和がなされており、その地域に暮らした人たちの原風景となるものです。

Kさんの原風景である景観は、近景に白谷海岸、中景には三河湾に浮かぶ島々や知多半島、遠景には鈴鹿山脈が折り重なっています。



『棚田』と棚田状の畑。海岸に面した棚田は珍しいものですが、現在は作られていません。(昭和54年/白谷)

そして白谷海岸には、角立網と舟に乗り作業をする漁民の姿が見えていたことでしょうか。夕焼けがそれらの風景に色を加え、漁村であった白谷の集落とともにすばらしい風景だけに違いありません。

角立網は当時と比べその数は減ったと思われませんが、現在ではその美しい風景に、三河湾に入出港する大型の船が加わっています。

このように、漁業と自然の調和によって生まれたこの景観は、文化的景観と言うにふさわしいもので、われわれの心にいつまでも残る「たからもの」と言えましょう。… つづく
(増山)

生涯学習課 ☎ 23局 3531